

概念工学における専門家の役割

田中 凌 (Ryo Tanaka)

JSPS 特別研究員 PD・東京大学大学院総合文化研究科

本発表では、概念工学やその実装において専門家・理論家が果たすべき役割を検討する。少なからぬ場合において、言葉や概念の意味内容を理論的・実践的理由から意図的に変化させようとする動きを主導するのは、何らかの言説領域に関して制度的権威を持つ専門家・理論家集団である。例えば「惑星」といった語の定義変更を行いそれを社会に流通させる役割を担ったのは天文学に関する専門家たちであるし、また、概念工学の例として頻繁に挙げられる「女性」概念の改訂とその実装を提唱する主要人物は、哲学者の Haslanger である (Haslanger 2000)。概念工学を主導する主体が専門家である場合、実装のモデルとしては次のような描像が自然に得られる。すなわち、まず専門家たちが専門家コミュニティの中での議論や探求に基づいて概念をどのように変更すべきかの合意に至ったあと、非専門家たちに働きかけることでその代替概念を社会的に実装する、というものである。ここには、いわば「信頼できる専門家に自身の使用する言葉・概念の意味を定めてもらう」という、従来の言語哲学でも「意味論的委任 (semantic deference)」として論じられてきた構造が存在する。

こうした背景のもと、本発表ではふたつのことを行いたい。第一に、概念工学の実装は、非専門家がある概念にかんする意味論的委任のあり方について考えを改めることによって行われうることを明らかにする。具体的には、以前と異なる専門家集団に委任を行うという決定、あるいは一時的に意味論的委任を取りやめる (Pollock 2019) といった決定が、語や概念の意味内容を変化させ得る。第二に、こうした仕方で非専門家が専門家集団へ意味論的委任のあり方を決断する際に生じる、一般的な問題を指摘し、その答えを模索する。問題は、非専門家はそもそも対象となる領域において何がより良い概念なのかを自分自身で適切に判断できないとされるからこそ、専門家への意味論的委任を行う必要があるということから生じる。こうした状況の中で、非専門家たちは、どの専門家集団に意味論的委任を行うべきか (あるいはいったん委任を差し控えるか) を、いかにして適切に判断できるのだろうか。この問いに対する答えは、意味論的委任にかんして非専門家と専門家とのあいだに成り立つべき関係についての先行研究 (e.g. Ball 2020) を参照することで与えられるだろう。

参考文献

Ball, D. 2020. Metasemantic ethics. *Ratio*, 33(4), 206–219.

Haslanger, S. 2000. Gender and race: (what) are they? (what) do we want them to be? *Noûs*, 34 (1), 31–55.

Pollock, J. 2019. Conceptual engineering and semantic deference. *Studia Philosophica Estonica*, 12(0), 81–98.